

横浜市立和泉小学校 令和2年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

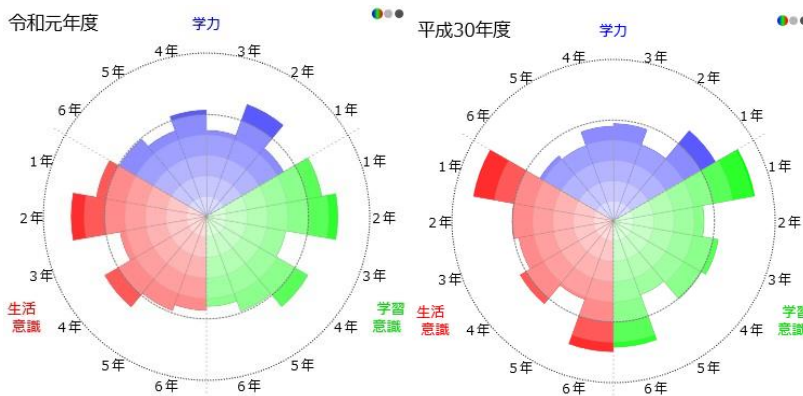
(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
<p>○ 学校、家庭、地域がしっかりと手を結び、児童が安全、安心に過ごせる学校にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決学習を通して、児童が学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、自ら考え、自己の思いを豊かに表現できる子を育てます。 ・道徳の学習や、伝統的行事に取り組み、豊かな心を育みます。 ・体育的行事に取り組みながら健康的な身体を作ります。 ・学校・家庭・地域との「つながり」を大切にして、地域の中に生きる心豊かな子を育てます。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	<p>どの子ども「わかる」喜びを実感できる授業を保障し、基礎・基本の定着を図るとともに、課題解決学習を通して、考える力・表現力の育成を目指していく。</p>	<p>①基礎・基本の定着を図り、自ら学ぶ力を培う。 ②特別支援教室の充実を図り、一人ひとりを大切にする。 ③教材研究や研修を組織的に行い、研究・研修を通して教師の授業力向上に努める。 ④児童の特性に応じ、個々に合った教育を展開する。 ⑤どの子ども安心して学習できるよう、ユニバーサルデザインを取り入れた授業を展開する。 ⑥家庭との連携を密にし、基礎・基本の定着を図る。</p>
担当	重点研推進 委員会	

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

全体的に、高学年になるに従い、学習意識や生活意識が高くなるのが分かる。授業中の学習態度もよく、意欲的に学習に取り組んでいる。学力は、学年が上がるに従い上昇していることが分かる。2、4、6年では市の平均以上の成績を残している。このまま基礎学力の定着をめざし継続的な取り組みを続けていくことが大切である。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：すべての学年の全観点で市平均を下回っているが、書く力や読む力など徐々に市平均に近づいている。今年度重点研究を「国語」に指定し基礎学力の向上をめざしたい。
- 算数科：2、4、6年では市平均を上回り基礎学力の向上がうかがえる。家庭学習の充実を踏まえ、基礎基本の定着を目指した取り組みを強化していきたい。
- 社会科：4年生以外のすべての学年のほとんどの観点で市平均を下回っている現状がある。社会的な知識理解は市平均を上回りつつあるが、思考判断についてはほとんどの学位年で下回っている。
- 理科：どの学年も市平均を上回っている。特に知識理解や技能が上回っているが、理科学習意識の数値が市平均を下回っていることが気になる。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学習意識及び生活意識が学年を上がるごとに上昇していることが分かり、結果として学力が大きく上昇している。文章をしっかり読んで答えるという問題の性質から、読む・聞く・考え・発表することを学習の中に定着した成果であると

思える。これからも、自ら学ぶという姿勢を身に付けさせ、授業内においては自己肯定感を高めていくことができるよう、細やかな指導をしていく必要がある。基礎・基本の学習に加え、自己表現ができる習慣も身に付けるべきである。

3 令和2年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

- 基礎・基本を身につけるために、繰り返し学習の時間を確保し、全体で取り組む。
- 個々のよさに目を向け授業に取り入れるなど、授業展開を工夫し、学ぶ楽しさを感じることができるようにする。
- できるよろこびを味あわせることや、認め合う活動を行うことで、学びの習慣に結びつけていく。

2 学年

- 確実な基礎・基本の定着をめざし、繰り返し学習する時間を確保する。
- 一人ひとりのよさを認め、自己肯定感を高めることで学習に前向きに取り組めるようにする。
- 具体物を使ったり、活動を取り入れたりするなど、学習への意欲を引き出せるようにする。
- できる喜びを味あわせることや、認め合う活動を行うことで、学びの習慣に結びつけていく。

3 学年

- めあてを明確に提示することで、主体的に活動できるようにする。
- 振り返りや繰り返し練習をする時間を十分にとるようにして基礎・基本の定着を図る。
- 体験や活動を通して、学習への意欲を引き出す。
- 問題解決型学習での活動を通して、思考力や表現力を育てる。

4 学年

- 「目標設定」→「活動」→「振り返り」のサイクルを児童が活動できるように計画を立てる。
- 言語活動の充実を図り、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 個に応じた支援・指導を行い、言語や計算などの基礎基本の定着を図る。
- 教師間で、共通理解を図り、チームで指導していく。

5 学年

- 朝学習の時間に算数・国語の計算プリント、漢字ドリルなどの反復学習に取り組み、基礎基本の定着を図る。
- めあてを設定し、見通しをもった学習を行う。活動後にはめあての振り返りを行い、達成感を感じられるようにする。
- ペア学習・グループ学習を取り入れ、学び合いが充実するようにする。
- 言語活動の充実を図ることで必要に応じて言葉を選び自分の考えを発表したり書いたりする力を高められるようにする。
- 算数TTによる個に応じた指導・支援が行えるようにする。

6 学年

- 自分の興味・関心や課題を見つけ、深めたり解決したりする能力を育むため、自学ノートに取り組む。
- 専科および学年間の連絡を密にし、児童の見取りを充実させ、授業に生かす。
- 国語辞典を日常に活用することで語彙力を充実させ、教科を越えて発揮できる論理的理解力や、自身をもって自分の考えを書いたり伝えたりするなどの表現力を向上させる。

個別支援学級

- 児童の実態に応じた指導が徹底できるよう、担任で共通理解を図り、一人ひとりに応じたきめ細やかな指導を行う。
- 児童の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、持てる力を高め、学習・生活上の適切な指導を行う。
- 落ち着いて学習が進められる空間づくりをし、学習環境やワークシステムの構造化を図る。
- 個別で繰り返しの学習を行うとともに、家庭との連携を深め、より定着が進むよう支援する。